



闇に浮かぶポタラ宮

日本人とチベット

—河口慧海のチベット旅行を中心として—

高野山大学 奥山直司

慧海三つの顔

我国最初のヒマラヤ踏破者 → 探検旅行者

日本西藏学の始祖 → 学者

在家仏教の首唱者 → 宗教家

東京世田谷九品仏浄真寺
「河口慧海師碑」(椎尾弁匡撰)

宗教家

チベット旅行

探検者

学者





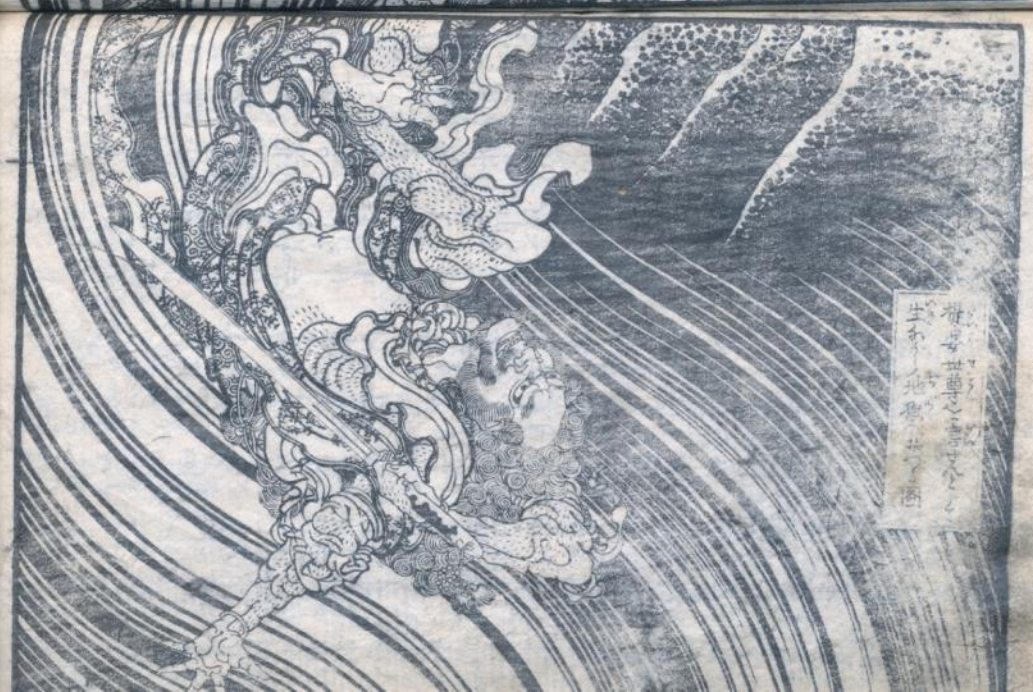
堺・北旅籠町大道筋



北旅籠町内にある旧鉄砲鍛冶屋敷



北旅籠町西三丁にある生家跡の碑



好華堂野亭編『釈迦御一代記図会』
二八四五の挿絵（前北斎卅老人）

好華堂野亭編『釈迦御一代記図会』
（二八四五）の挿絵（前北斎卅老人）

禁食肉 禁酒 不淫



信貴山朝護孫子寺(毘沙門天)



京都・宇治の黄檗山萬福寺

般若波羅蜜多心經

唐三藏濃師玄奘奉詔譯

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空
度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空
空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相
不生不滅不垢不淨不增不減是故空中無色無受
想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界
乃至無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死亦
無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無所得故菩
提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無
有恐怖遠離顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若
波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波
羅蜜多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等呪
能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜多呪即說
呪曰

揭諦揭諦

波羅揭諦

波羅僧揭諦

菩提薩婆

訶

般若波羅蜜多心經





ブライアン・ホジソン
(1800—1894)
の胸像

ベンガル・アジア協会
旧館(コルカタ)

アレキサンダー・
チョーマ・ド・ケーレ
ス(1782ー1842)の
ブロンズ像
(ハンガリー東洋学
協会から寄贈され
たもの。大正大学
蔵)

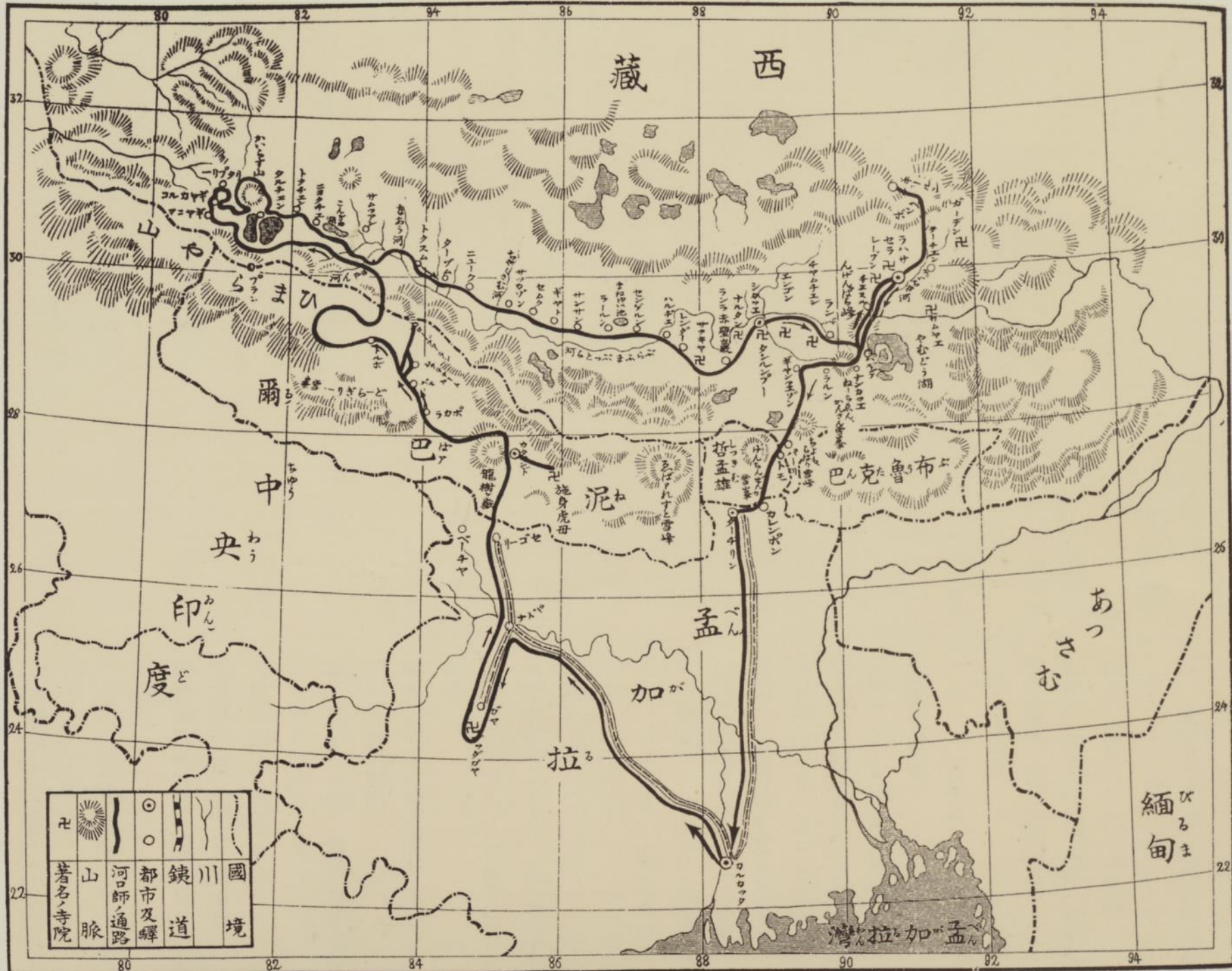




ダージリンの共同墓地にあるチョーマの墓



西洋のインド学・仏教研究の影響を受けて我が国で**入蔵熱**が起こる





世界文化遺産ダージリン・ヒマラヤン鉄道(トイ・トレイン)



ダージリンの町が見え始める



サラット・チャンド
ラ・ダース
(1848－1917)



カトマンドゥ盆地のボードナート大仏塔

An aerial photograph of a vast, winding river valley. The river, a light brown color, meanders through a wide, flat valley floor. The surrounding mountainsides are steep and covered in dense, dark green forest. The sky is a pale, hazy blue. The overall scene is one of a grand, natural landscape.

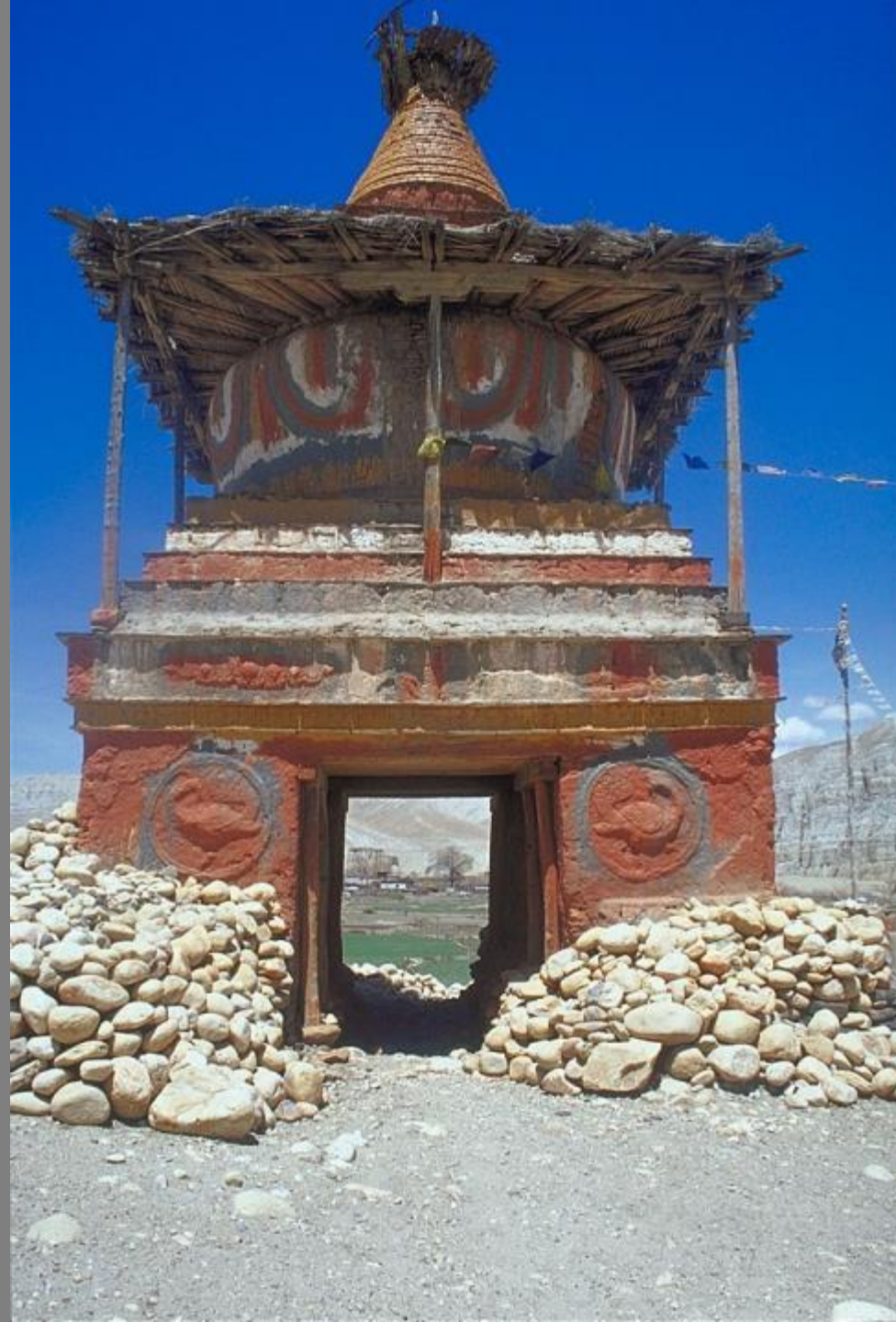
カリ・ガンダキの大峡谷

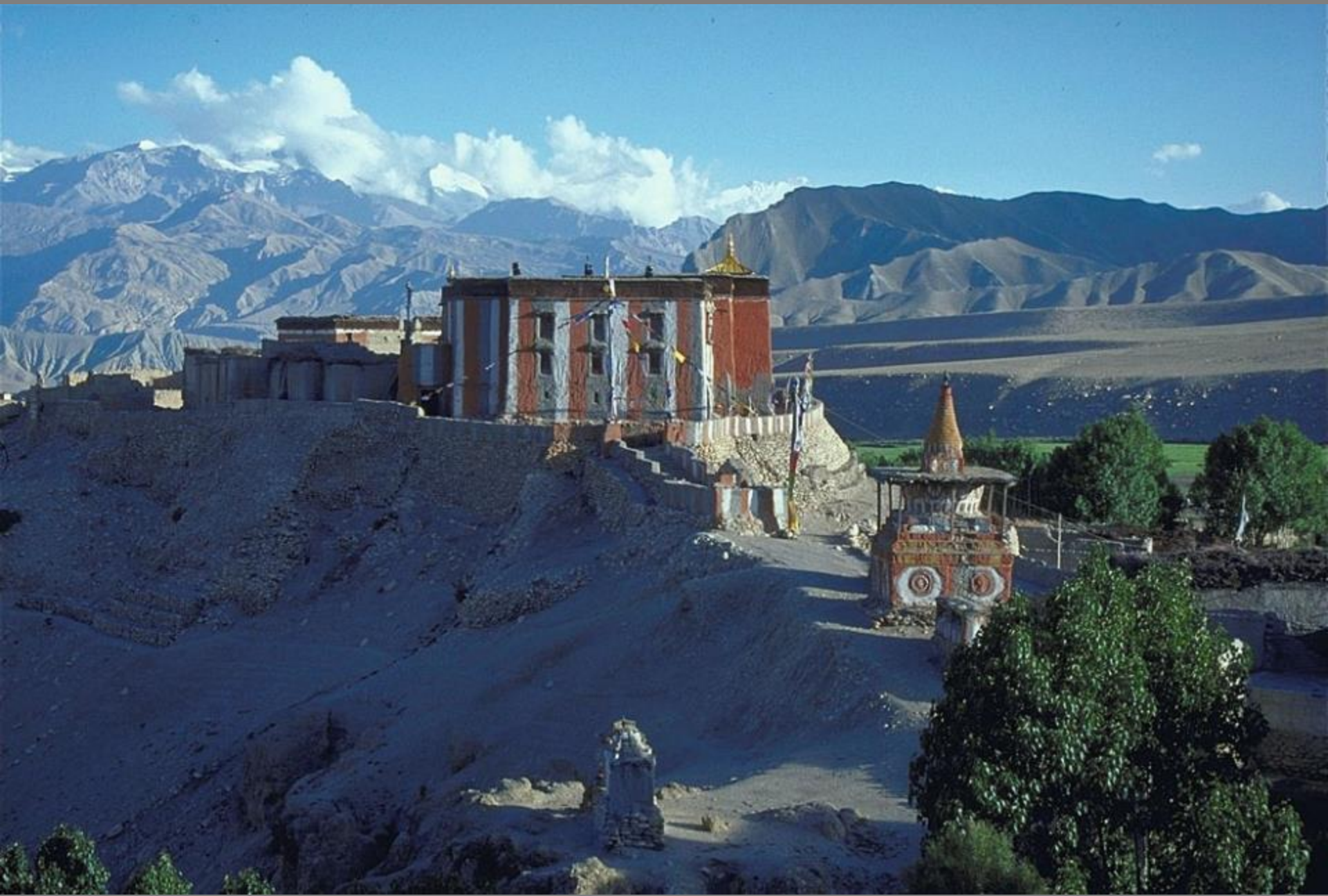


カグベニ



ダウラギリ(8167m)とトウクチェピーク(6920m)



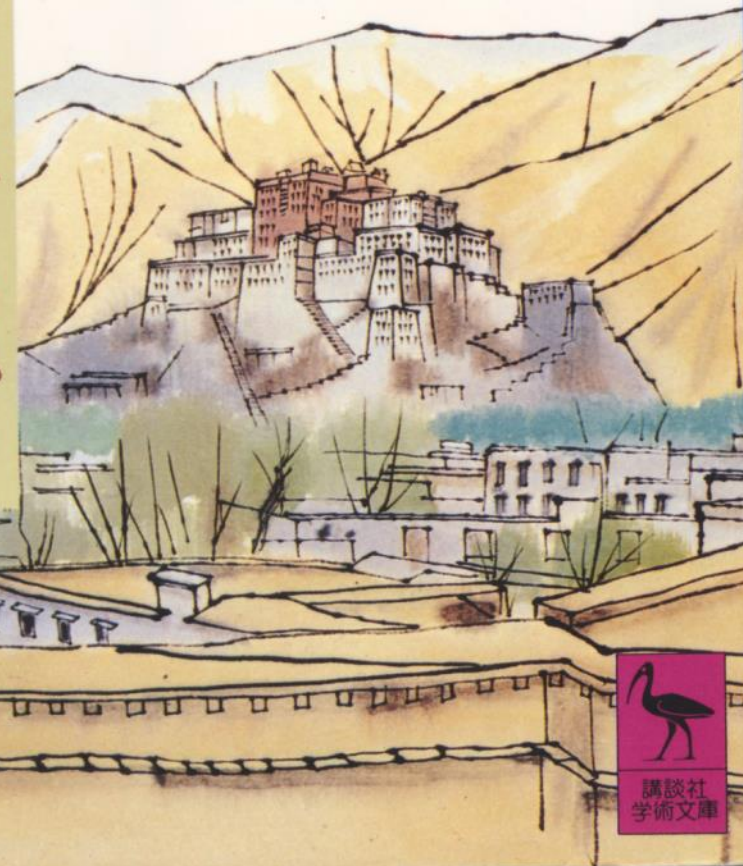


ツァーラン村



チベット旅行記(一)

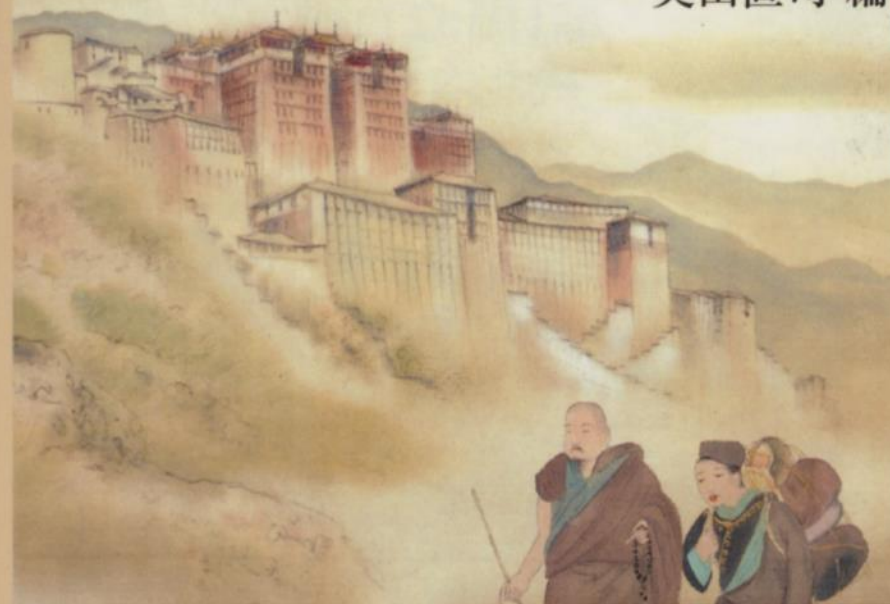
河口慧海



河口慧海日記

ヒマラヤ・チベットの旅

河口慧海
奥山直司 編



艱難辛苦のチベット行
旅の日常がリアルに伝わる
日記の全貌

講談社学術文庫

講談社学術文庫

◎明治三拾三年三月十日。西曆土曆。二月十一日。女記之。

◎光陰可惜時不待人生死事大無常迅速。

前時起寢テ讀經入(いんさん・つみ)浴身沐浴シテ求堂ニテ持
戒ヲ請フ全女ハ嘗テ不淨心ニテ余ヲ戀ヒシアリシモ持戒心ニ起ル
一日ノ如クナリシテ以テ彼女ハ遂ニ真心ニ授戒ヲ請フニ至レルナリ
余ハ以前ヨリ屢々持戒ノ要心ニ等々充分説キシモ此日改メテ懇々
持戒ノ要領ヲ説ク次デ式ノ如ク授戒ス身觀者君ニ此式ヲ
行前ニ彼女ノ名ヲ改メシテ(石原・まゆみ)トス。彼女ハ
授戒右親近年尼佛ノ舍利塔ニ誓フテ白ク誓フモ持戒ヲ
フセント彼女ノ決心實意其容貌ニ顯ハ見者ヲ感得セシメヨリ
當(まづ)村ニ佛尼君ヲ呈シテ彼女ノ如ク眞實ニ信法持
セン者ハ甚ダ稀ナリ。次デ余ハ此日當地ニ出生シテ一切難
ヲ脱シ爲ニ(マルバー)ナル山村(當地ヨリ西南ニ四里)ニ赴クコトナレル
ヲ以テ送別人朝來々宜セルモ(二十金)此茶里ヨリ往ニ

大陽
◎三月十一

古川
ルヲス

◎三月十一

西幸ニ

アル山

(ツロ)

余者ア

◎三月十一

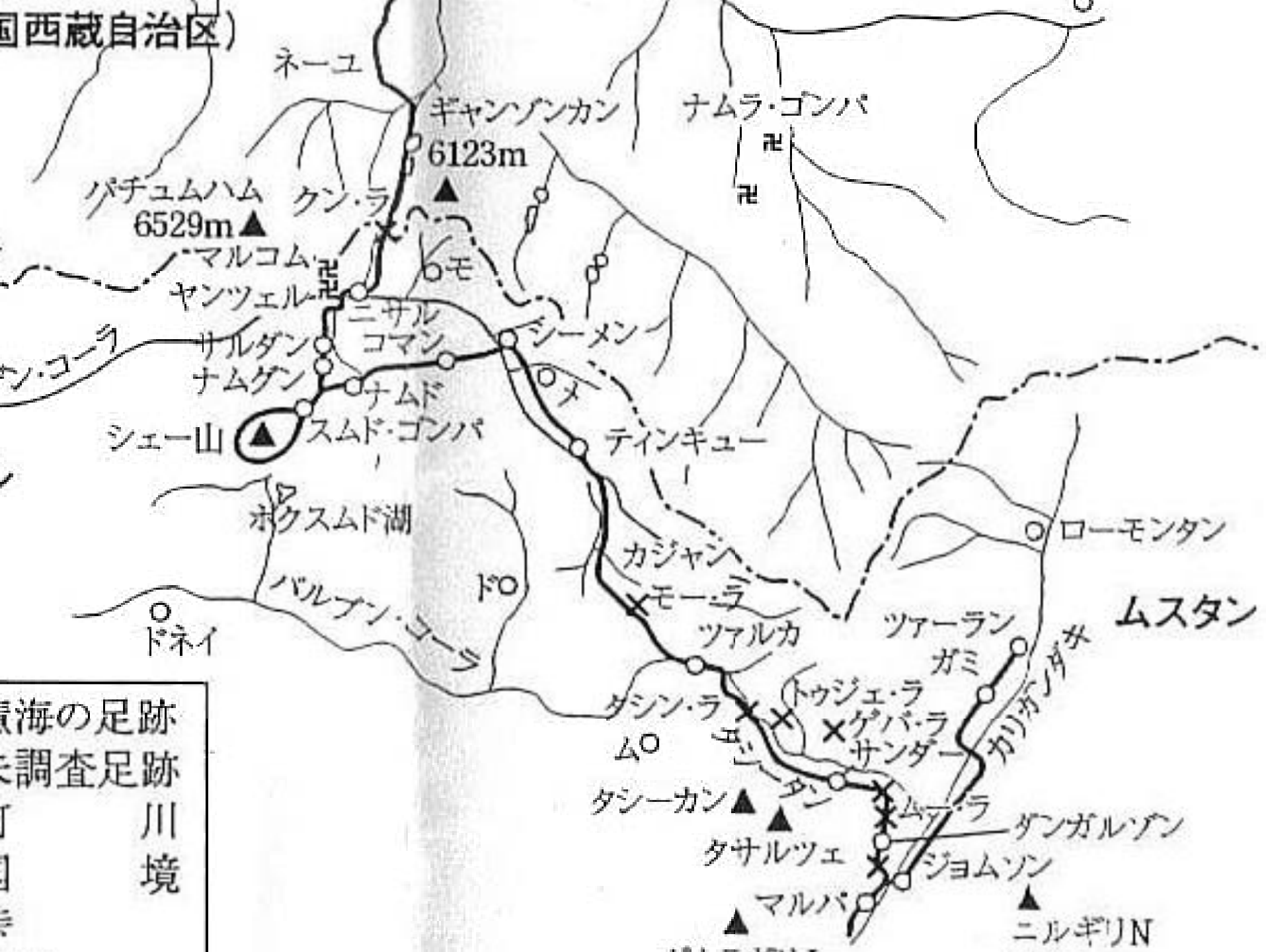
招集

ヲ共

西南ニ

往キシ

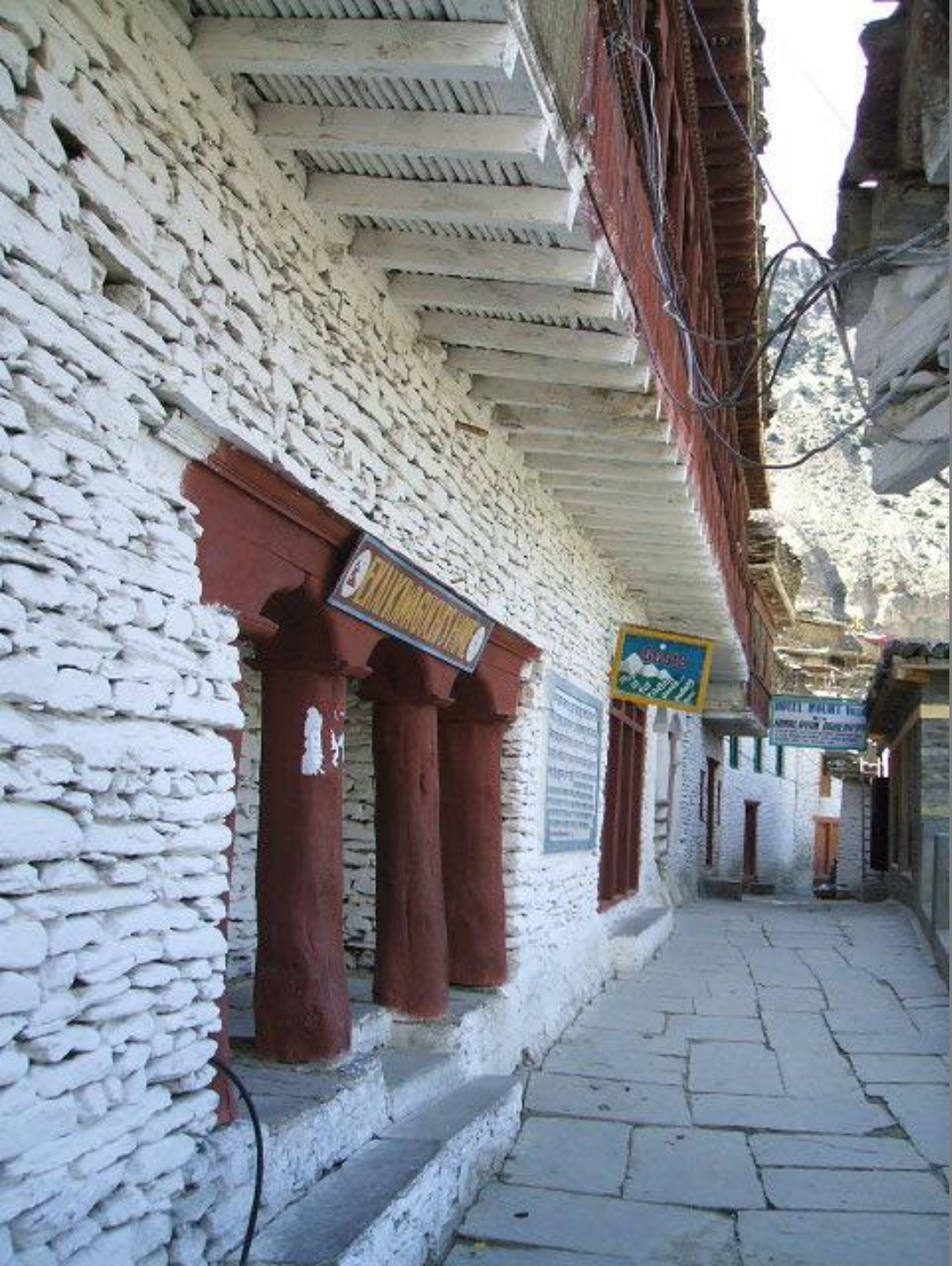
国西藏自治区)



海の足跡
調査足跡
川境

マルパの旧アダム・ナリン邸

撮影 大西保





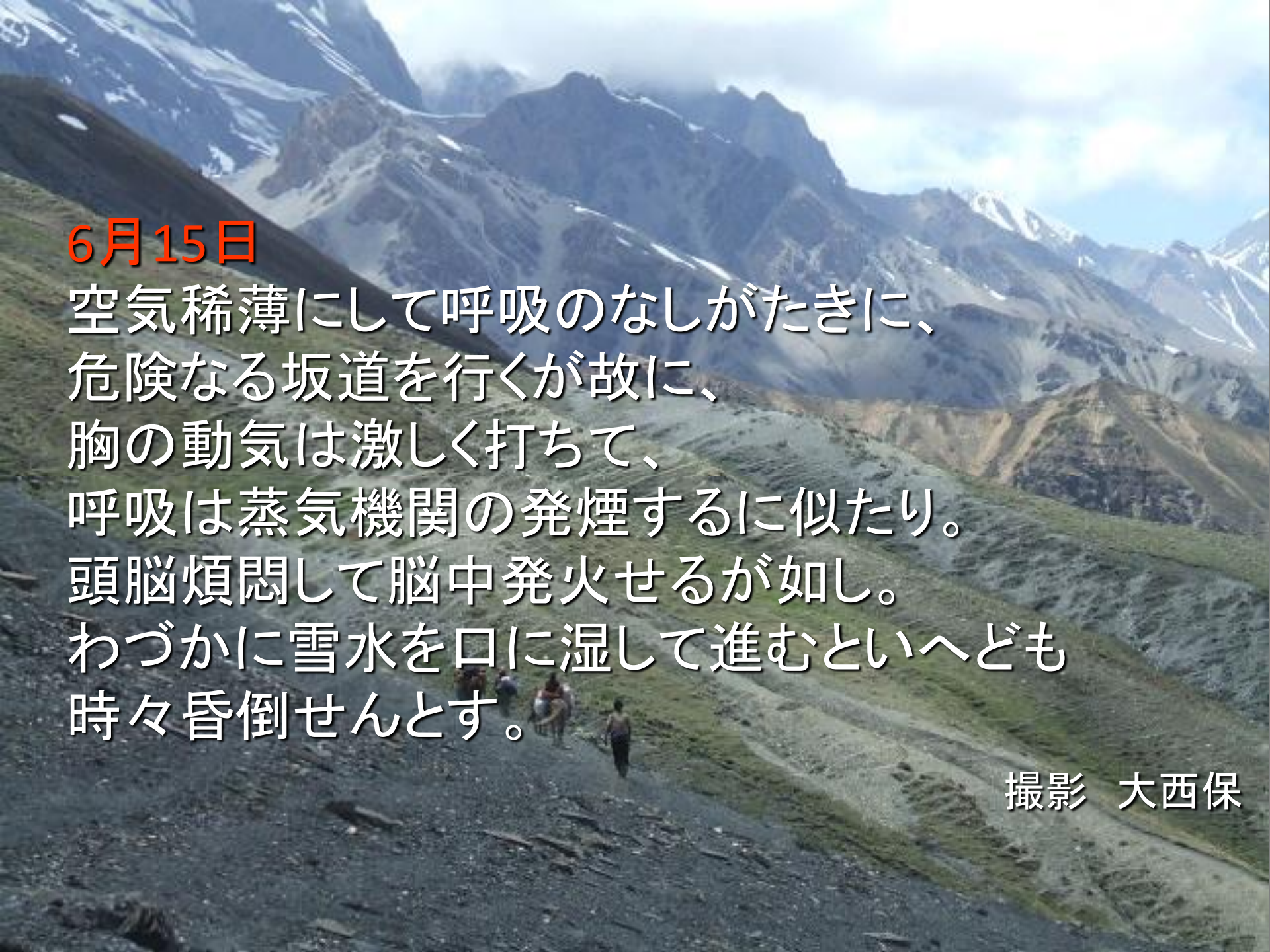
空の屋根つちをしとねの草枕
雲と水との旅をするなり

ニルギリ(7061m)

A photograph of a stone stupa in a high-altitude mountainous region. The stupa is constructed from stacked stones and has a white-painted upper section. In the background, there are rugged mountains with significant snow cover under a blue sky with some clouds. To the left of the stupa is a low stone wall, and to the right is a small wooden structure with prayer flags. The ground is rocky and uneven.

6月12日、マルパを案内人と共に出発した慧海は、
翌日ダンカルゾンに着いた。
彼は足痛と風邪のためこの村に二日間逗留した。

ダンカルゾン(3229m) 撮影 大西保

A wide-angle photograph of a high-altitude mountain landscape. In the foreground, a wide, dark, gravelly dirt path leads into the distance. Several hikers are visible on the path, some walking away from the camera and others further ahead. The terrain is rugged and rocky, with patches of low-lying vegetation. In the background, majestic snow-capped mountain peaks rise against a cloudy sky. The overall scene conveys a sense of adventure and the challenges of high-altitude travel.

6月15日

空気稀薄にして呼吸のなしがたきに、
危険なる坂道を行くが故に、
胸の動気は激しく打ちて、
呼吸は蒸気機関の発煙するに似たり。
頭脳煩悶して脳中発火せるが如し。
わづかに雪水を口に湿して進むといへども
時々昏倒せんとす。

撮影 大西保



シェーの水晶山(5576m) 撮影 大西保

7月1日、慧海はスムド・ゴンパを発ち、
いよいよ国境の峠を目指した。



シェーの麓にあるスムド・ゴンパ 撮影 大西保



クン・ラ(5411m)

撮影 大西保



ネーユ

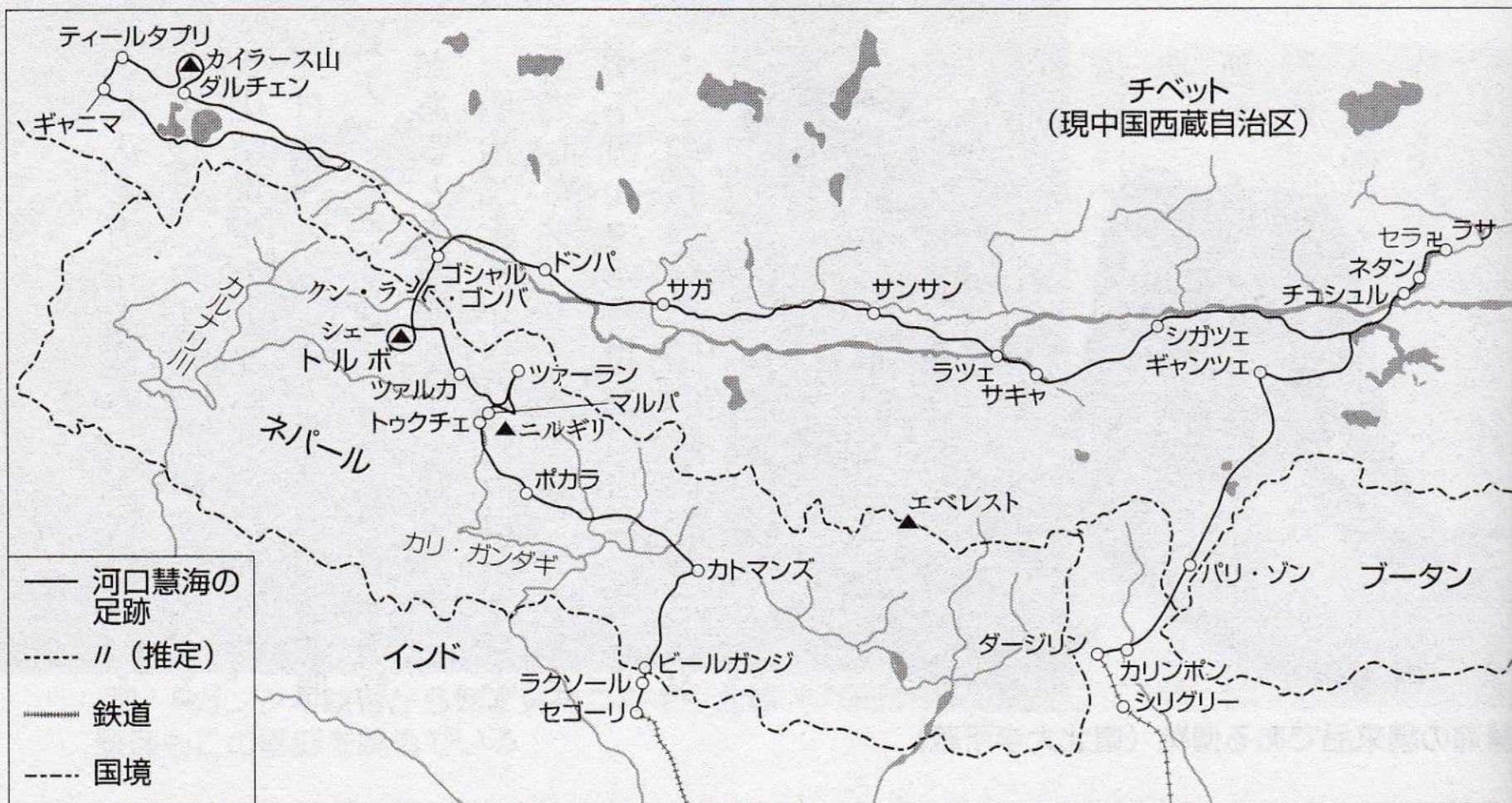
仁広池

慧海池

撮影 大西保



ネーユで泊めてくれたのはこんな人々かも



慧海の踏査関連地図 (『河口慧海日記 ヒマラヤ・チベットの旅』(講談社学術文庫) の「河口慧海踏査関連地図」に基づいて作図)



カイルース(6638m)

撮影:大西保



マーナサローワル湖とナムナニ
撮影 大西保



カイルース

撮影 大西保







1901年3月21日、慧海はついに禁断の都ラサに到着した。
マルパを経ってから9ヵ月余り後のことである。



セラ寺のペトゥク・カムツァン



法苑での教義問答







ダライ・ラマ十三世
(一八七六～一九三三)





シッキム（ティスタ川とランギット川の合流地点）

第二回旅行で請来された經典
の一部 写本カンギルなど



ヤクの皮で梱包されている。

東洋文庫蔵

慧海が大正二年十月にダー
ジリンで採集したヒマラヤザクラ



大正二年十月廿二日
全園店エロース・パンク族集

東北大学河ロコレクション

青銅製釋尊像々

《寫縮本見品與頒》



原

像

巾 高さ
奥行

九寸
六寸五分
三寸

本佛像は今より凡そ一千七百年前印度グプタ朝時代の創作にかゝり
佛成道の地印度佛陀伽耶大菩提寺に安置されたる得難き尊像なり。
慧海老師印度滞在中カルカッタ博物館考古部長ベナルチー氏より特
に贈與されたるものにして、材料は黒曜石と推せらる。本邦美術家
が稀有の傑作として推奨惜かざるものなり。

釈迦牟尼仏坐像

（藤原萬蔵・等子旧蔵、東北大学
総合学術博物館現蔵）



「高村光雲刻之」（大正11年）

宗教家

在家仏教
(ウパーサカ)

探検者

学者

- (1) 釈尊(ブツダ)への回帰を志向する、
- (2) 大乘仏説の信念に基礎を置いた、
- (3) 戒律主義的
- (4) 在家主義

大阪山の会・河口慧海研究プロジェクト
大西保氏に感謝